

## 第6章 南部丘陵の緑地保全のあり方

### 1 南部丘陵の緑地保全に関わる現状認識と課題

南部丘陵の緑地保全に関わる現状認識と課題は以下のように整理できる。

- ・南部丘陵全体は市の各種構想や計画で緑地保全が位置づけられているとともに、市民アンケート調査<sup>※1※2</sup>において8割以上の回答者が「南部丘陵の緑地保全の推進」を望むなど、市民生活や市の都市環境にとって貴重な緑地であり、何らかの緑地保全対策を実施することが求められる。  
※1 緑の保全と創出に向けたアンケート調査(平成22年10月実施、回答者総数1,382人)において、南部丘陵の緑地保全について、「進めるべきだと思う」が50.7%、「どちらかといえば進めるべきだと思う」が32.4%の回答であった(第4章1参照)。  
※2 「さかい緑のフォーラム」における参加者アンケート調査(平成22年11月実施、回答者総数662人)において、南部丘陵の緑地保全について、「進めるべきだと思う」が79.6%、「どちらかといえば進めるべきだと思う」が10.0%の回答であった(第4章2参照)。
- ・南部丘陵の自然環境は一様ではないため、自然環境の評価を行うことが重要となる。自然環境の評価に際しては、地域を被覆している植生の植物群落の種組成、構造及び分布が気候的要因、土地的要因、生物的要因といった環境要因の総合的作用の産物として把握される。また、各動物の存在や移動を保障しており、さらに、丘陵地の自然景観も植生の構造や種類により支配されていると考えられることから、植生の評価に基づいて実施するものとした。その結果、前項の「植生等の自然環境に基づく評価結果」に示すように、特に評価の高いランクⅠの地区が明らかとなった(第5章4参照)。
- ・南部丘陵では、面的にまとまった緑地保全に対して有効な対策が立てられていないことから、散発的な開発が進行し、緑地の減少が続いている。そのため、特に、自然環境の評価が高い地区に対しては、実効性をもった面的にまとまりのある緑地保全対策を実施することが急務である。

### 2 南部丘陵における緑地保全の進め方

上記の現状認識と課題を踏まえ、南部丘陵の緑地保全の進め方を示す。

第一に、植生等の自然環境に基づく評価が高く、面的にまとまった緑地を核となる地区ととらえ、適正な維持管理により良好な「里地里山環境」を形成することをめざし、優先的に保全を行うこととする。

第二に、上記を除く南部丘陵の緑地については、将来の土地利用が不安定であることから、適切な維持管理等による緑地の保全を行うこととする。また、緑地の保全にあたっては、自然的特性や社会的特性をあらかじめ把握し、緑地の保全の動向に応じた保全策を講じることとする。